

学びのイノベーション事業及びフューチャースクール推進事業の実施に係る
京都市地域協議会第5回会議

1 日時

平成 25 年 3 月 8 日（金）14：00～16：00

2 会場

京都市立桃陽総合支援学校会議室

3 次第

(1) 開会

(2) オブザーバー紹介

(3) 議事

ア 平成 24 年度事業実施報告について

イ 平成 25 年度（最終年度）事業実施計画について

ウ 協議，指導助言等

エ その他

(4) 閉会・挨拶

京都市地域協議会 第5回会議録（概略）

(1) 開会

(2) 委員紹介

○オブザーバーを紹介

総務省 近畿総合通信局 情報通信部 情報通信振興課 長野 達也 上席企画監理官

(3) 議事

ア 平成24年度事業実施報告について

○情報化推進総合センター指導主事から説明

①後期（第4回地域協議会以降）の主な取組について

- ・教育委員会の教科指導主事との連携を図ながら（ICTの活用を含んだ）授業作り
- ・取組成果を全教員で共有し、研鑽を積む中で、全ての教科で日常的にICTを活用
- ・アントレプレナーシップ教育を取り入れ、児童生徒の自己肯定感を育む学習活動
- ・TV会議システムを活用した本校と分教室の交流活動・児童生徒会活動など、特別活動におけるICT活用機会の充実（学校行事での活用、他校との交流学习）
- ・移行支援として、TV会議システムを活用した前籍校との交流
- ・複式学級でのICTを活用した授業実践
- ・体育での活用
- ・防災訓練について

②本年度の特徴的な取組について

- ・「リモート・コンサートホール」システム開発とそれを用いた授業実践
- ・「リモート・サイエンス・ラボ」システム開発とそれを用いた授業実践
- ・中学校用デジタル教科書の導入と利用について

○桃陽総合支援学校研究主任から説明

③桃陽総合支援学校でのICT活用例

- ・Web（TV会議システム）の活用（外国語活動等における実践事例）
- ・協働学習システムの活用（表現が苦手な児童生徒による書き込みやそれをもとにした発表、本校と分教室間での意見の共有などの事例紹介）
- ・移行支援の取組（教室に入れない児童生徒に対するICTを用いた移行支援の事例）

④アンケート結果についての分析

- ・児童生徒一人1台のPC環境が学習に役立っているとの気持ちは向上している。
- ・一方で交流学习の意義が児童生徒にあまり理解されていない面もある。

○中東校長から、府立分教室の中3年生が高校入試の際の面接において、印象に残ったことがらとして、福島県立須賀川養護学校との交流に関して答えた。ということを披露。

○滝川座長から、須賀川養護学校の東日本大震災の影響や、ICT活用の取組について説明があり、以前からTV会議による交流活動を行っておられたことをお聞きする。

◆エビデンスについては「治療効果」や「ドクターの思い」で捉える側面はどうか？

- ・定性的には治療効果が上がったのではないかとドクターの意見もあるが、定量的には効果測定がむずかしい。

- ・入院中は制限事項や制約が多くあるが、ICT を使ってできるようになったことあり、それが子どもたちのモチベーションを高めている。
- ・当初は ICT を懐疑的に見ており、負の部分に懸念していたが、子どもの心の交流までを運んできたのではないと思う。それまで授業に入れなかった子どもが ICT の活用で安心感を得て、授業に入れるように支援できている。

◆ICT を活用することによる負の部分や課題にはどのようなものがあったか？

- ・本校には、ゲーム依存などの影響により入院した子どもがいるが、最近少しそのような傾向も見られ、授業に関係のない遊びをしていることも見受けられるようになってきたこともあり、対応について検討している。そうした課題を子どもたち自身で考えられるようになる方向に導いていきたい。

◆タイムシフト再生機能を使った体育の授業はどうであったか？

- ・当初、カメラに映ることを嫌う子どもがいたが、徐々に慣れてきた。中学生は自分のフォームを見て修正するという目的にあった活用ができるようになった。

イ 平成 25 年度（最終年度）事業実施計画について

○情報化推進総合センター指導主事から説明

①教科指導研究に関して

- ・国語科…協働学習の充実（協働学習システムの機能を生かした取組）
- ・理科…「リモート・サイエンス・ラボ」システムの活用
- ・音楽科…「リモート・コンサートホール」システムの活用
- ・総合的な学習の時間…アントレプレナー教育の実践

②「学びのイノベーション事業」における教材等の開発

- ・教科指導研究と連動した研究開発を目指す。
- ・小学校用の学習者用デジタル教科書の試用について

○桃陽総合支援学校研究主任から説明

③校内研修

平成 24 年度と同様、4 月は異動教員を中心に展開し、5 月以降は、各教員のニーズや状況を踏まえたミニ研修等を適宜開催。また、理論研修の充実を図る。（大学教授 3 名予定）

④公開授業

高校入試の日程が変更になったことから例年より 2 ヶ月早め、12 月 6 日（金）に実施する。また、毎年 12 月に開催している公開授業は、平成 26 年 1 月 31 日（金）に開催する

⑤ICT 支援員

さまざまな支援をしてもらっている。新しい取組については関わっていただいているが、25 年度で ICT 支援員配置が終了することを踏まえ、自校の教員のみでできることはするようにしている。

⑥評価の充実・改善

25 年度の最重要課題として位置付けている。治療効果など医療的な知見を伺うために、病院のカンファレンスにも参加するようにしている。定性的なご意見は聞けるのであるが、定量的な評価を得ることは困難である。

数値化可能な視点をもとに、個々の生徒の状況を追跡することが可能な部分について検証していきたい。

○事務局から、児童生徒の月別在籍状況資料について説明

○事務局から、文部科学省の小学校学習者用デジタル教科書の開発状況について説明

◆子どもの ICT の使用時間はメディアリテラシーの習得に近いと思われるが、それらはエビデンスに使えるか？

- ・これまで TPC の使用時間のログは取っていないが、取得することは可能かもしれない。検討してみる。

◆PC は人と人をつないだり、個に対応したりする機器だと思う。病気の内容に応じて活用方法を使い分けたり、ルールの定着を図ったりする必要がある。また、自己肯定感が個人内評価としてどれくらい高まるかが一つの指標になるのではないか。ICT を使うことで学習空白時間の減少度合いを計測できないか。前籍校に復帰してからの追跡調査ができないだろうか。

ウ 協議、指導助言等

○各委員・オブザーバーからの御意見

・TV 会議で授業することの難しさがああり、状況によっては授業を受けている方がお客さん状態になることも。機会を設けて、双方の相互評価を行うことも必要である。

⇒ 遠隔で行う授業づくりについては、教員が知恵を出しあう必要がある。

- ・タイムシフト再生ができるようになったことに昔と隔世の感がある。ビデオで撮ったものを後で見せて子どもたちに考えさせる授業を行ったが、ICT を使うとリアルタイムにできる。
- ・ICT を使って、目の見えない相手とネットワークでつながることに危惧を覚えていたが、学校の取組を知るとその効果を理解することができた。子どもたちが TV 会議などのネットにつながる意義について重点的に指導していただき、それらが分かってこそ、さらなる成長があるだろう。
- ・自宅で療養している子どもに対しても、本事業で得られたノウハウを活かしていただきたい。

◆小児がん拠点病院の指定（京大病院・府立医大病院）に関してどのようになっていくのか？

⇒ 全国 15 指定のなかで京都は 2 つであり、全国的には病内学級として設置されているが、京都は学校として取組がなされる点においても全国的にみても果たす役割が大きいと思われる。

(4) 中東校長から閉会の挨拶

「実証研究を進めていくなかで、子どもたちも自信を持って前向きに進んでいこうという思いを持つことを含めた確かな学力がついてきているように思う。これをきっちり実証できるような取組を進めていきたい。表に出ない多くの活動が教員によって取組まれているが、それらの基盤をさらに強固なものにしていきたい。」

第5回会議 参加者

1 地域協議会委員等

(敬称略)

氏名	所属・役職
滝川 国芳	国立特別支援教育総合研究所統括研究員【座長】
山村 節子	全国特別支援学校病弱教育校長会副会長，全国病弱虚弱教育研究連盟理事長 (静岡県立天竜総合支援学校長)
桶谷 守	京都教育大学教育支援センター教授 (コミュニティ・スクール研究推進委員長)
黒田 知宏	京都大学准教授，京都大学医学部附属病院医療情報企画部副部長
神月 紀輔	京都ノートルダム女子大学心理学部准教授
大畑 眞知子	京都市立藤城小学校長 (京都市小学校長会副会長) [公務のため欠席]
森本 哲	京都市立松原中学校長 (京都市立中学校教育研究会情報教育部会会長) [公務のため欠席]
藤谷 貞之	京都市立鳴滝総合支援学校長
(氏名 略)	京都市立桃陽総合支援学校保護者代表 (PTA会長)
柴原 弘志	京都市教育委員会指導部長【副座長】 [公務のため欠席]
川井 勝博	京都市教育委員会指導部情報化推進総合センター所長【プロジェクトリーダー】
中東 朋子	京都市立桃陽総合支援学校長

2 オブザーバー

総務省 近畿総合通信局 情報通信部 情報通信振興課 上席企画監理官 長野 達也

3 校内推進委員会(プロジェクト)

京都市立桃陽総合支援学校教員

京都市教育委員会 総合育成支援課指導主事

京都市教育委員会 総合教育センター指導主事

京都市教育委員会 情報化推進総合センター指導主事

4 その他

ICT 支援員

西日本電信電話株式会社京都支店

エヌ・ティ・ティ・コム チェオ株式会社

株式会社ピーパルシード

5 事務局

京都市教育委員会 情報化推進総合センター